



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日:2015年1月発行(第57号)

発行:警告の角笛出版

価格:100円(送料込みで200円)

角笛HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 【目次】

◎巻頭メッセージ:「オルナンの打ち場」 エレミヤ

◎証:祈りについて教えられたこと(2) E3

◎お知らせコーナー:「新刊本の紹介」「日曜礼拝のご案内」「第39回黙示録セミナー」

### [巻頭メッセージ]

#### 「オルナンの打ち場」

by エレミヤ

今回は「オルナンの打ち場」という題でメッセージをしたいと思います。「オルナンの打ち場」とは何か?と言うと、エルサレムの神殿が建てられた場所です。以下のように記載されています。

#### 【聖書箇所】Ⅱ 歴代誌 3:1

3:1 こうして、ソロモンは、主がその父ダビデにご自身を現わされた所、すなわちエルサレムのモリヤ山上で主の家の建設に取りかかった。彼はそのため、エブス人オルナンの打ち場にある、ダビデの指定した所に、場所を定めた。

旧約時代に建てられたエルサレムの神殿、神の家は壮麗なものですが、しかし、それはまた、新約の神の家、教会の型でもあります。以下のように書かれています。

#### 【聖書箇所】Ⅰ テモテへの手紙3:15

3:15 それは、たとい私がおそくなつたばあいでも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。

です。旧約の神の家、神殿について学ぶこと、それはまた、新約の神の家、教会に関して学ぶことに通じるのです。そういう意味で、ソロモンの神殿がどのような場所に建てられたのかを知ることは大事です。それはそのまま今の時代の神の家、教会に通じることだからです。

#### <「オルナンの打ち場」とは何か?>

さて、この神殿が建てられた「オルナンの打ち場」とはどういう所なのでしょう? 「オルナンの打ち場」に関しては、以下のように記載されています。

#### 【聖書箇所】Ⅰ 歴代誌21:15

21:15 神はエルサレムに御使いを遣わして、これを滅ぼそうとされた。主は御使いが滅ぼしているのをご覧になって、わざわいを下すことを思い直し、滅ぼしている御使いに仰せられた。「もう十分だ。あなたの手を引け。」主の使いは、エブス人オルナンの打ち場のかたわらに立っていた。

ここにはダビデが罪を犯し、そのことのゆえに災いがエルサレムに下ったことが描かれています。そして災いは、御使いを通して来たのです。そしてその滅ぼす「主の使いは、エブス人オルナンの打ち場のかたわらに立っていた。」ことが書かれています。すなわち「オルナンの打ち場」とは、御使いによる災いが下るまさにその場所

# 「オルナンの打ち場」 エレミヤ

なのです。たとえて言えば、高さ30mを越す未曾有の大津波がやってくる海岸のように危険な場所です。そこには滅びが待っており、「さばき」がすぐそこに待機しているのです。そして「打ち場」ということばも暗示的です。「打ち場」とは、収穫された麦を打つところであり、また麦と穀とを区分するところです。そしてこの「打ち場」は、以下のようにさばきと関連して語られています。

〔聖書箇所〕マタイの福音書3:12

3:12 また、箕を手に持って、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう。

ですので、この「オルナンの打ち場」とは、「さばき」を意味するたとえとも理解できます。さて、もう少しこの話の続きを見てみましょう。

〔聖書箇所〕I 歴代誌21:16-18

21:16 ダビデは、目を上げたとき、主の使いが、抜き身の剣を手に持ち、それをエルサレムの上に差し伸べて、地と天の間に立っているのを見た。ダビデと長老たちは、荒布で身をおおい、ひれ伏した。

21:17 ダビデは神に言った。「民を教えよと命じたのは私ではありませんか。罪を犯したのは、はなはだしい悪を行なったのは、この私です。この羊の群れがいったい何をしたというのでしょうか。わが神、主よ。どうか、あなたの御手を、私と私の一家に下してください。あなたの民は、疫病に渡さないでください。」

21:18 すると、主の使いはガドに、ダビデに言うようにと言った。「ダビデは上って行って、エブス人オルナンの打ち場に、主のために祭壇を築かなければならない。」

ここでダビデは民を滅ぼす御使いに関連してとりなしをしています。これは王として、民の罪を贖い、とりなす方、すなわちキリストの型なのです。さらにまた、ダビデはこのオルナンの打ち場を買い取っています。

〔聖書箇所〕I 歴代誌21:22-25

21:22 そこで、ダビデはオルナンに言った。「私に打ち場の地所を下さい。そこに主のために祭壇を建てたいのです。十分な金額で、それを私に下さい。神罰が民に及ばないようにするためです。」

21:23 オルナンはダビデに言った。「王さま。どうぞ、お取りになってお気に召すようになさってください。ご覧ください。私は、全焼のいけにえのための牛、たきぎにできる打穀機、穀物のささげ物のための小麦を差し上げます。すべてを差し上げます。」

21:24 しかし、ダビデ王はオルナンに言った。「いいえ、私はどうしても、十分な金額を払って買いたいのです。あなたのものを主にささげるわけにはいきません。費用もかけずに全焼のいけにえをささげたくないのです。」

21:25 そしてダビデは、その地所代として、金のシケルで重さ六百シケルに当たるものを、オルナンに与えた。

このようにダビデは自分の金を払い、値を払ってこの災いの場所、「オルナンの打ち場」を買い取っています。そしてそれは、ご自分の命の犠牲、流した血の代価を払って民を買い取った（贖った）キリストに通じます。

〔聖書箇所〕I 歴代誌21:26,27

21:26 こうしてダビデは、そこに主のために祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえとをささげて、主に呼ばわった。すると、主は全焼のいけにえの祭壇の上に天から火を下して、彼に答えられた。

21:27 主が御使いに命じられたので、御使いは剣をさやに納めた。

ダビデはこのオルナンの打ち場に祭壇を築きました。その結果、災いをもたらそうと抜き身の剣を持っていた御使いは、その剣をさやに収めました。すなわち災いがエルサレムに下らないようになったのです。この時築かれた祭壇は後に、この場所に建てられる神殿に通じます。すなわち神の家、教会が建てられることは、すなわち神の民を滅ぼそうとする御使いの災いとどめることに通じるのです。この箇所の並行記事であるサムエル書には以下のように書かれています。

〔聖書箇所〕II サムエル記24:25

24:25 こうしてダビデは、そこに主のために祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえとをささげた。主が、この国の祈りに心を動かされたので、神罰はイスラエルに及ばないようになった。

この祭壇で捧げるダビデの祈りにより、もう

# 「オルナンの打ち場」 エレミヤ

神罰はイスラエルの国に及ばないようになったのです。いわばこの祭壇は、大津波を防ぐ堤防のような存在になったのです。そしてこの祭壇は後に、この同じ場所に建てられるようになった神殿に通じます。すなわち神殿、神の家、教会とは、民へ臨む洪水のような災いを防ぐ防波堤のような役割がある、そのことがここでは語られているのです。そしてこれらの事柄の意味合いの中心は、ご自分の命の代価を払って民の罪を贖った（買い取った）神の子イエス・キリストの犠牲と祈りなのです。

## ＜モリヤの山＞

さて冒頭の聖句には、もう一つの事柄が書かれています。

### 〔聖書箇所〕Ⅱ歴代誌 3:1

**3:1 こうして、ソロモンは、主がその父ダビデにご自身を現わされた所、すなわちエルサレムのモリヤ山上で主の家の建設に取りかかった。彼はそのため、エブス人オルナンの打ち場にある、ダビデの指定した所に、場所を定めた。**

それはこの神殿、神の家がモリヤ山上に建てられたということです。このことの意味合いは何でしょう？この「モリヤの山」とは、以下の有名な聖句の箇所に出てきます。

### 〔聖書箇所〕創世記 22:2

**22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」**

「モリヤの山」とは、他にもないアブラハムがその大切な子であるイサクを捧げた場所なのです。そしてアブラハムがイサクを捧げたことはひとつの型であり、それは父なる神がひとり子イエス・キリストの命を捧げたことの型なのです。

ですので結論としてこのことが分かります。旧約の神の家、神殿が建てられた場所を通して神殿、神の教会に関する大事な意味合い、教えがあることです。その意味合いのひとつは神殿とは、「オルナンの打ち場」で語られているよ

うに民へ下される御使いの災いを防ぐ、防波堤のような意味合いがあるということです。もうひとつは神が民への災いを思い直し、控えることです。その理由として御子イエス・キリストによる犠牲、贖いがある、このことが語られているのです。神殿、神の家にはこのような意味合い、役目があるのです。そしてこれらのことは、単に旧約の神殿に関することのみで終わらず、さらに新約の神の家、教会に関しても通じるのです。すなわち教会も「オルナンの打ち場」の上に建っているとと言えるのです。

## ＜災いがエルサレムに臨む日＞

さて、このようにしてダビデの時にエルサレムに臨もうとした災いはオルナンの打ち場でとどめられ、またその場所に神殿が築かれたのです。しかしその後、その神殿が崩され、またエルサレムに災いが臨む日が来ました。以下のことばの通りです。

### 〔聖書箇所〕ルカの福音書 19:41-44

**19:41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、  
19:42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。  
19:43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、  
19:44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」**

ここでイエスが嘆いておられるように、エルサレムの崩壊の日は前もって預言されました。そしてイエスの十字架の40年後、具体的には西暦70年にエルサレムはローマにより滅ぼされました。この時、オルナンの打ち場の滅ぼす御使いはとどめられず、このエルサレムの町に災いが臨み、この町の最後の一人まで殺されてしまったのです。そしてこのことと付随するように神の家である神殿は、同じくローマによりこの時徹底的に破壊されました。主の以下の預言のことばの通りです。

# 「オルナンの打ち場」 エレミヤ

〔聖書箇所〕マタイの福音書 24:1,2

24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「これらのすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

この神殿である宮の崩壊とエルサレムの滅びは関係があります。オルナンの箇所で見ましたように、津波のような御使いの災いを神の宮である神殿が防波堤のようにとどめていたのです。しかし宮がその本来の働きをやめ、崩壊した時、エルサレムの町も合わせて御使いの災いの下に滅びたのです。エルサレムがこのような災いにあった理由もはっきりしています。彼らが父なる神が犠牲を払ってわざわざ送った一人子を拒絶し、殺したため、贖いも神との平和も崩壊してしまっただけです。

ですから私たちはこれらの記述を通して、以下2つのことを学ぶのです。

- ①津波のような災いをもたらそうとする御使いをとどめる神殿の存在
- ②その神殿が崩壊するときに、災いが神の民の町であるエルサレムを襲う

## ＜御使いの災いは黙示録の日に再現する＞

さて、終末について語る黙示録を読むときに気付くことが一つあります。それはこの書には御使いを通して下される多くの災いについて書かれていることです。たとえば以下の記述です。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録7:1,8:6,7,15:1

7:1 この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を強く押え、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。

8:6 すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。

8:7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雹と火とが現われ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。

15:1 また私は、天にもう一つの巨大な驚くべきしるし

を見た。七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。神の激しい怒りはここに窮まるのである。

このようにこの書には、多くの御使いを通して下される災いに関して書かれています。このことが黙示録の大きな特徴です。他にこのような書はありません。しかしなぜなのでしょう？その理由を理解するにあたって、黙示録に書かれている多くの御使いの災い、それは先ほどのオルナンの箇所に通じることに気付かされます。

黙示録の明らかな特徴、それは終末の日に滅ぼす御使いを通じた災いが頻繁にこの地に臨み、神の民に臨む日だと語る書であるということです。それは先ほどのたとえで言えば、全ての防波堤が崩壊し、結果、津波のあらゆる災いが制限無しに住民に臨む時のようなものです。津波をとどめる何ものも存在しない時となるのです。

## ＜神の宮、教会は崩壊する＞

その日、災害をとどめていた防波堤のような存在である神の神殿、新約の教会は崩壊し、土台石の一つも残されない状況になります。それゆえに御使いを通じた災いは津波のように神の民に臨む、そのように理解できるのです。前述しましたように、主はマタイの福音書24章で終末の日に関連して宮、神殿の崩壊を語りました。この預言は2重写しのように2段階で成就します。すなわち最初の成就是西暦70年のローマによるエルサレム崩壊の日に神殿崩壊は成就しました。そして2度目の成就是終末の日であり、その日、神の家であり、祈りの宮であるべき教会は崩壊します。

それは物理的な崩壊を語っているわけでもなく、世界中の教会の建物が崩壊することを預言されているわけでもありません。そうではなく、祈りの宮、神やキリストを拝する場所としての神殿であるべき教会が本質的に、教理的に崩壊し、背教する日を預言しているのです。神の教会の構造や土台は物理的な石やレンガではなく、逆に使徒や預言者です。以下のように書かれているからです。



# 「オルナンの打ち場」 エレミヤ

〔聖書箇所〕エペソ人への手紙2:20-22

2:20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。

2:21 この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、

2:22 このキリストにあつて、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

そして主はこのような神の神殿、教会の土台が崩される日を預言して、「**ここでは、石がくずされずに、積み残されたまま残ることは決してありません。**」と言われたのです。すなわち具体的に言えば、教会から使徒であるパウロやペテロの教えが取り除かれる日、それどころか隅の頭石であるイエス・キリストの教えさえ、教会から取り除かれる日を預言して語っているのです。

そしてこのことを裏書きするように今、世の中では教会の根幹を揺るがすような動きが始まっています。世界的にベストセラーとなったダヴィンチコードでは、キリストが結婚していた、子どももいたなどという嘘がまことしやかに語られています。キリストが結婚していたという「事実」を裏付けるような「考古学発見」が色々と出てきているようです。このようなストーリーはまともなクリスチャンには、話にもなりません。しかし残念ながら、この世の人はこのような嘘を真に受けるようになるでしょう。そしてこの世についてのクリスチャンもこのような冒険的な作り話を受け入れるようになるでしょう。そしてその結果、以下のことばのように背教が全世界の教会に起きてくるようになるでしょう。

〔聖書箇所〕Ⅱテサロニケ人への手紙2:3

2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

「背教」とは、すなわちクリスチャンがキリストを信じなくなる、聖書の福音書の話も受け入れず、福音書の話はデタラメだ、キリストはペテン師であり、聖書も信用できない、と見出す日のことなのです。さて話を戻しますが、このようにして終末の日の教会はその土台の教

理も教えも完全に崩壊するようになります。そしてこのこと、新約の神殿である教会が崩壊することが黙示録の日の神の民に対して下される多くの御使いの災いの原因でもあるのです。

かつての日、オルナンの打ち場に建てられた神殿は、御使いがもたらす災いからエルサレムの神の民を守りました。また、モリヤの山に建てられた神殿は、神の御子の犠牲により、民の罪を贖い、許したのです。しかし世の終わりには神の神殿である教会は崩壊し、その根本であり隅の頭石であるキリストは外に追い出されます。もう教会の誰も彼もがキリストの神性も処女降誕も復活も信じなくなり、キリストも贖いも拒否されるようになるのです。そしてこのように神殿である教会が崩壊し、津波を防ぐ防波堤のような役割を果たしていた教会が崩壊することにより結果、御使いを通した災いが洪水のようにとめどなく、神の民に対して襲うようになるのです。

その日こそが黙示録に預言されている7つのラッパの御使いの災いや7つの鉢の災いや7つの災害が、教会や背教の神の民を襲う日なのです。分かりやすく言うなら教会の背教や崩壊と、御使いのもたらす災いとはセットになっているのです。終末の日に多くの御使いを通した災いが神の民に臨む、その根本原因、第一原因は、まず神殿、すなわち新約の神の教会の崩壊である、ということを聖書は暗示しているのです。このことを見ましょう。



偽りを拡散するダヴィンチコード

## 祈りについて教えられたこと(2) E3

大分前のことですが2010年の6月号で、「お祈り」に関して話をしたことがありましたが、11月の土曜日の集会で、ヨハネの福音書9章から「祈りは聞かれる」というテーマに基づいてエレミヤ牧師が語られていましたので、その時に教えていただいたことについて話をしたいと思います。「祈り」は私たちクリスチャンが歩みをしていく上で不可欠なものですよね？そしてそれに関して大事な語りかけを受けましたので、話をしたいと思います。まず、聖書箇所を見てみましょう。

### 参照 ヨハネの福音書9:30-33

**9:30** 彼は答えて言った。「これは、驚きました。あなたがたは、あの方がどこから来られたのか、ご存じないと言う。しかし、あの方は私の目をおあけになったのです。

**9:31** 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。

**9:32** 盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどは、昔から聞いたこともありません。

**9:33** もしあの方が神から出ておられるのじゃなかったら、何もできないはずですよ。」

かつての私は、どんな状態であっても祈れば神さまは聞いてくださる、とっていました。しかし31節に、「**罪人の言うことはお聞きになりません**」とありますように、私たち側に「罪」があるというときに、お祈りに応じていただけないということが理解できます。たしかに祈ることは尊いことですし、ある意味「お祈り」ができるのは

クリスチャンの特権とも言えますよね？しかもクリスチャンにとって、神さまは「天の父」でもありますので、神の子ども、すなわちクリスチャンのお祈りは何でも聞いていただけそうな気がしますよね？でも、ここでハッキリと、「**罪人の言うことはお聞きになりません**」とされていますので、「罪」がある場合、それを処理しないかぎり、聞いていただけないことが分かります。

そのことに関して、こんなことが言えるのでは？と思います。たとえばあなたが父親だとします。そしてある時子どもがこのようなお願いを父親であるあなたにします。「僕ね、〇〇のお店のアイスクリームを食べたいんだけど。」と。親御さんであれば、子どもにねだられれば当然食べさせてあげたいと思うわけです。でも、そこで父親は条件を子どもに出します。「よし、分かった。だけどね、その前に学校の宿題を終わらせようね。そしたらお店に行こう」と。そのことを聞いた子どもは「うん、分かった、僕、今から頑張って宿題をやるから」と言います。しかし、子どもはテレビの漫画に夢中でなかなか宿題に取り掛かろうとしません。早30分が経過し、2時間が経ち、辺りを見ると薄暗くなり、そろそろ夕飯を迎える頃でした。その間子どもが机に向かう気配は全く無く・・・しかし子どもはいきなり立ち上がって、「あっ、そうだ。お父さん、さっきアイスクリームを食べに行きたいって言ったけど、覚えてる？夕飯を食べる前に連れて行って！」なんて言

## 祈りについて教えられたこと(2) E3

われたら父親であるあなただったらどうしますか？約束を守らなかった子どもに対して、「お父さんの言うことを聞かなかったから、今回はお預けだね」なんて言うのではないのでしょうか？

私たちの霊の父親である神さまも同じで、神さまが言われていることに従わない、という時にお祈りを聞いていただけないのではないのでしょうか？それこそ神さまは、霊の子どもである私たちクリスチャンの願いは聞いてあげたい！と思われていると思うのですが、いかんせん無条件というわけにはいかないようです。「**罪人の言うことはお聞きになりません**」の**ことば**に続いて、「**だれでも神を敬い、そのみこころを行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださる**」ということが言われています。もし、お祈りに応じていただきたい！と思うのなら、「**みこころを行なう**」ことだということが分かります。もちろん「罪」があったらそのことを悔い改める必要があるでしょう。でも、それだけでなく、「**みこころを行なう**」ことを実践していくことにもポイントがあるようです。この両方を私たちが満たすなら、お祈りに応じますよ！なんてことをこの箇所は言われているように思いますが、いかがでしょうか？ゆえに、もし罪がある場合には、まず罪からの解放を祈り求めていきたいと思います。そして神さまが内側に語ってくださる声にその都度対応していきたいと思います。そうでないときに、お祈りにいくら時間や労力を費やしても、それはす

べて水の泡になってしまう可能性があるからです。それでは非常にもったいないと思いますので、これらのことに心を留めて祈っていくように心がけていきたいと思います。

ちなみにヨハネの福音書に、「**あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。**」(ヨハネの福音書 15 章 7 節)ということが書かれています。「**わたしのことばがあなたがたにとどまるなら～あなたがたのためにそれがかなえられます**」と言われていきますように、みことばにとどまること、すなわちみことばを行うことがとても大事だということがここでも強調されているように思います。そうするのなら、「**かなえられる**」と言われていくからです。ですからお祈りを聞いていただくために、罪から離れることと、みことばを行っていくことを常々心がけていきたいと思います。もし、よろしければ、これらのことをぜひ実践していきましょう。そして神さまに次々とお祈りを聞いていただきたいと思います。今回も大事なポイントを語ってくださった神さまに栄光と誉れがありますように。

# お知らせコーナー

## ●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税

注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

警告の角笛出版:

tel:042-364-2327

fax:020-4623-5255

mail:truth216@nifty.com

## ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

(tel:042-360-3311)

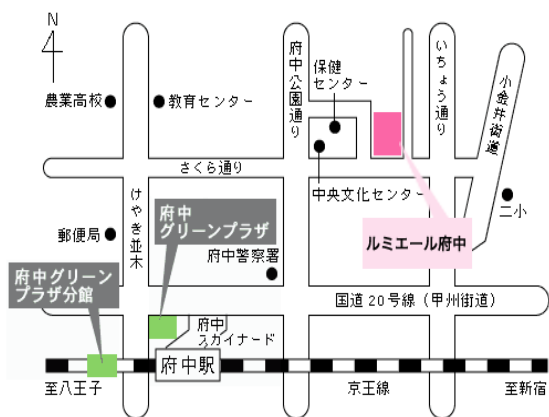
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、

「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

礼拝場所のURL:

[http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)



## ●第39回黙示録セミナー by エレミヤ

黙示録、ダニエル書など終末に関するトピックを解説するセミナーです。

北海道から、広島から熱心なクリスチャンが参加しています。

場所:府中グリーンプラザ本館第5会議室(7F)上記地図を参照。

日時:2015年3月8日(日) 18:00-20:30

費用:入場無料、但しテキスト代 1,000円(当日徴収)

定員:20名(先着申込順。満員次第締め切り)

主催:レムナントキリスト教会(tel:042-364-2327)

申し込み:メールもしくはfaxで、「名前、住所」を記載の上、「セミナー参加希望」とお申し込みください。

fax:020-4623-5255,mail:truth216@nifty.com